

日事連のBIM普及・活用に対する取り組み

2026年8月5日(水)

日本建築士事務所協会連合会
BIMと情報環境ワーキンググループ・委員
繁戸和幸

安井建築設計事務所

プロフィール

繁戸和幸（しげと・かずゆき）

■ 日本建築士事務所協会連合会

- BIMと情報環境ワーキンググループ・委員
- BIM GATE改修サブワーキング・主査

■ 安井建築設計事務所

- 理事・デジタル×デザインワークス部長

■ 主なBIM関連参加団体

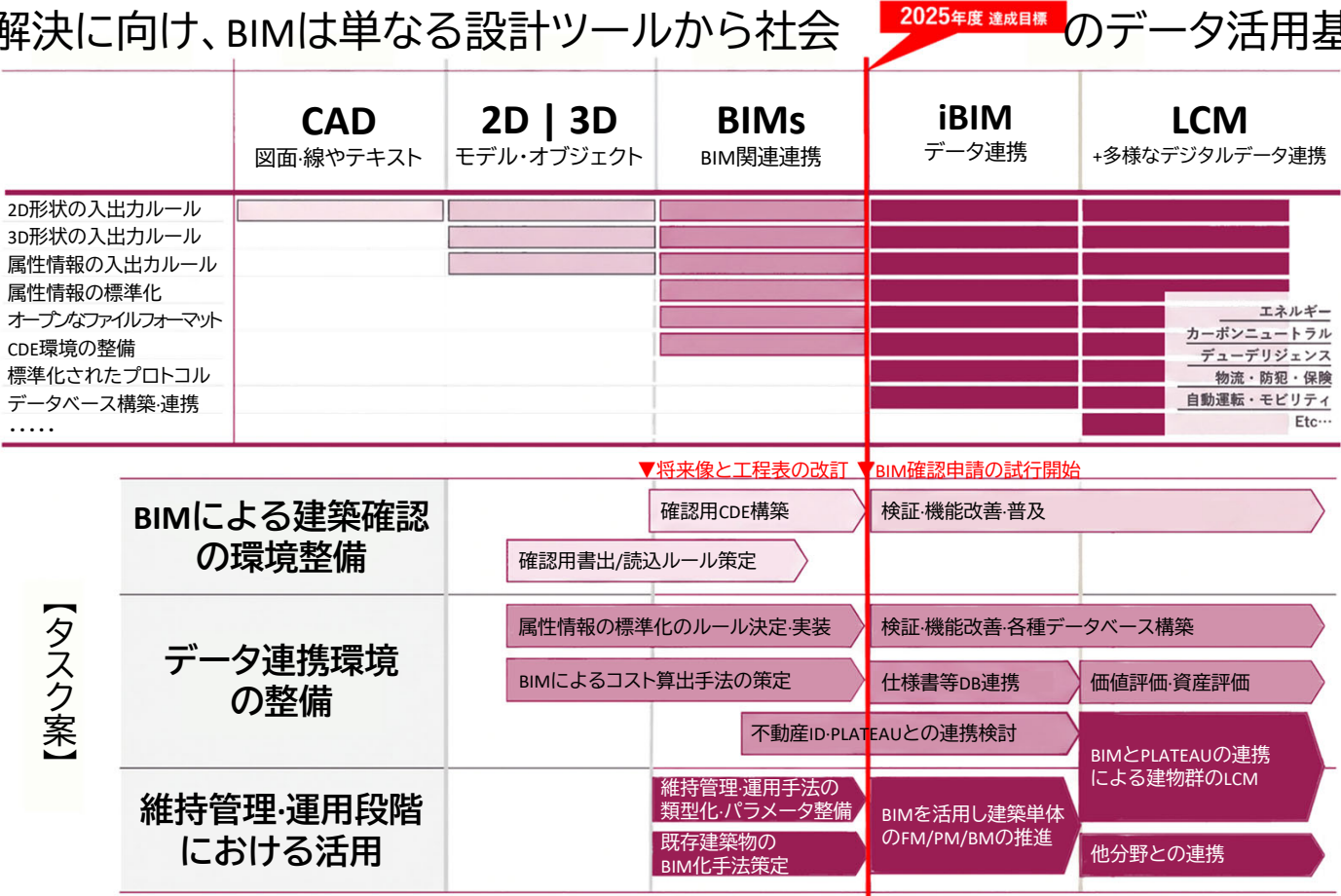
- 建築BIM推進会議／建築BIM環境整備部会・委員
- 官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会・オブザーバー
- 日本建築学会／DX情報教育手法・技術WG・委員
- 日本ファシリティマネジメント協会／BIM・FM研究部会・部会員
- BIMライブラリ技術研究組合／在り方部会・部会員／運用部会・部会員
- 建築確認におけるBIM活用推進協議会・会員
- 建築設計三会・設計BIMワークフロー検討委員会・委員 他



国が描く建築BIMの将来像

※出典:「建築BIMの将来像と工程表の改訂について」(国土交通省)より一部改変

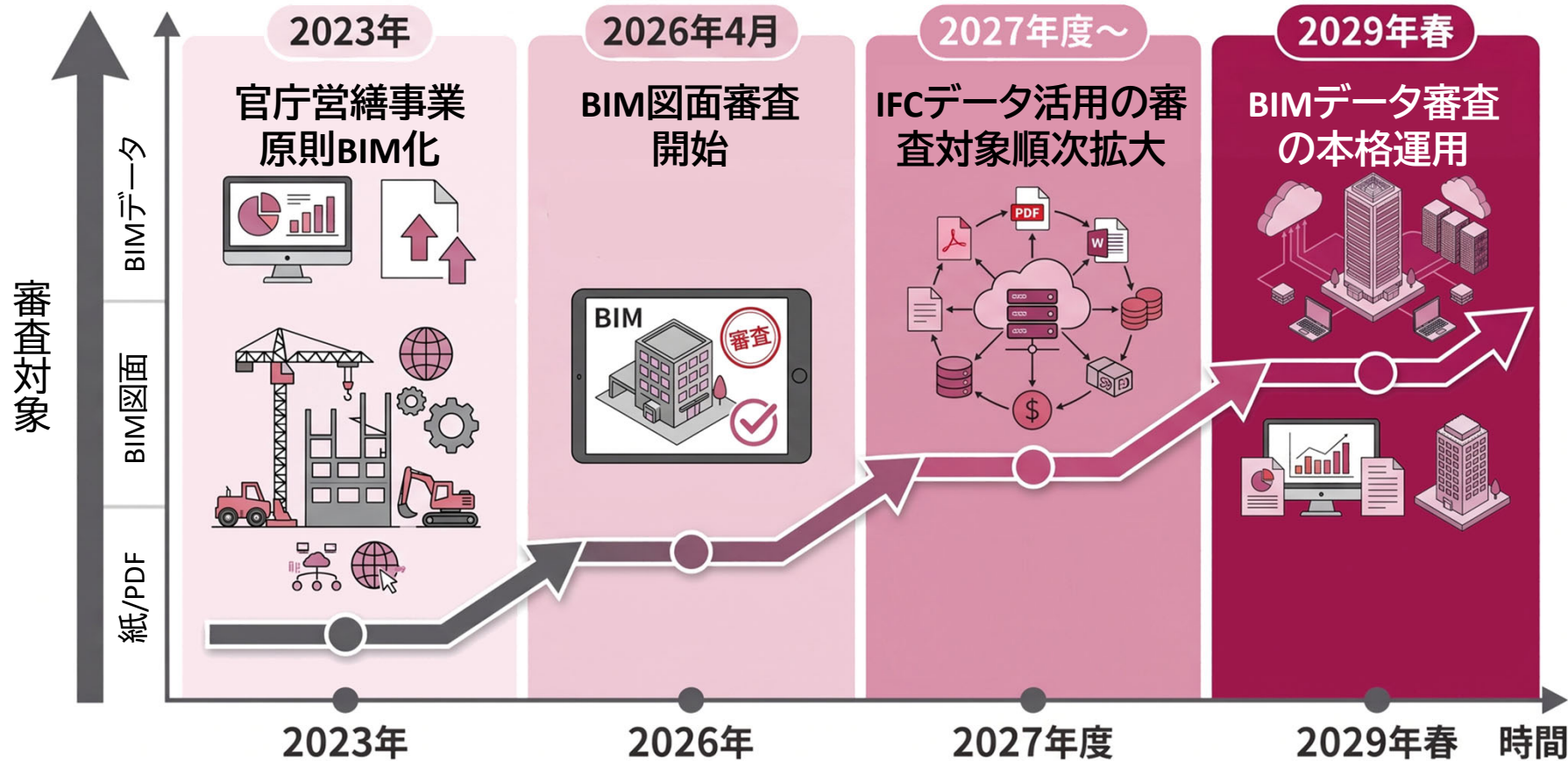
■ 社会課題の解決に向け、BIMは単なる設計ツールから社会のデータ活用基盤へ



BIMによる建築確認の開始と今後の展開

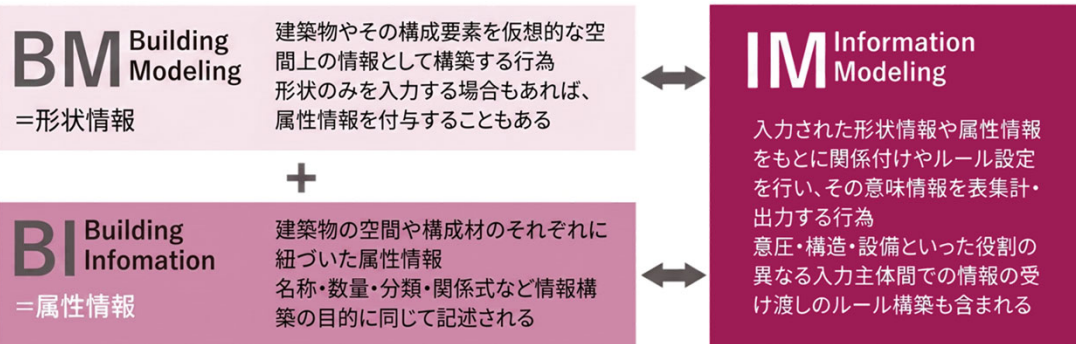
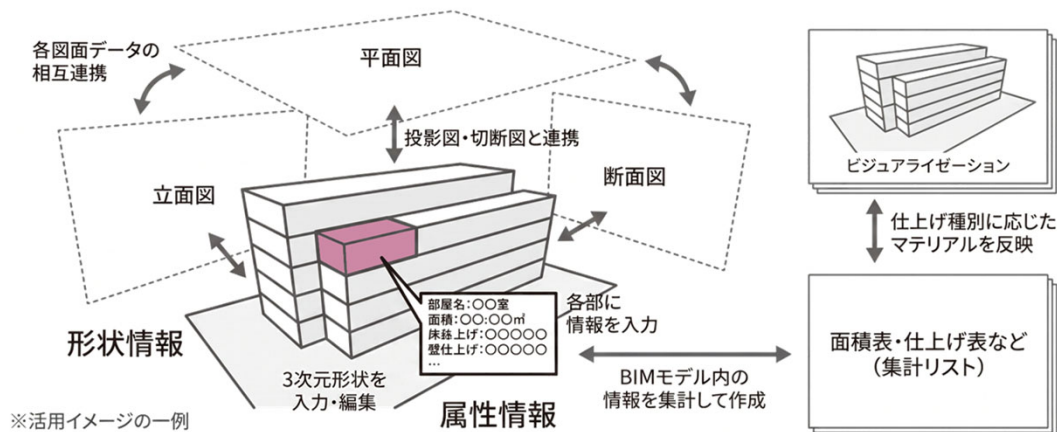
※出典:「BIM義務化とは?学生が知っておくべき3つのポイント」(総合資格navi)より一部改変

■ BIM図面審査 → BIMデータ審査へと進む転換点にあって、建築士事務所は今後何を指すべきか



BIMの3分法から見る情報活用の重要性

■ 綺麗な3Dモデルを作る段階から、情報を活用し、マネジメントする段階へシフトすることが重要



※作成:村井一(東京都市大学 准教授)

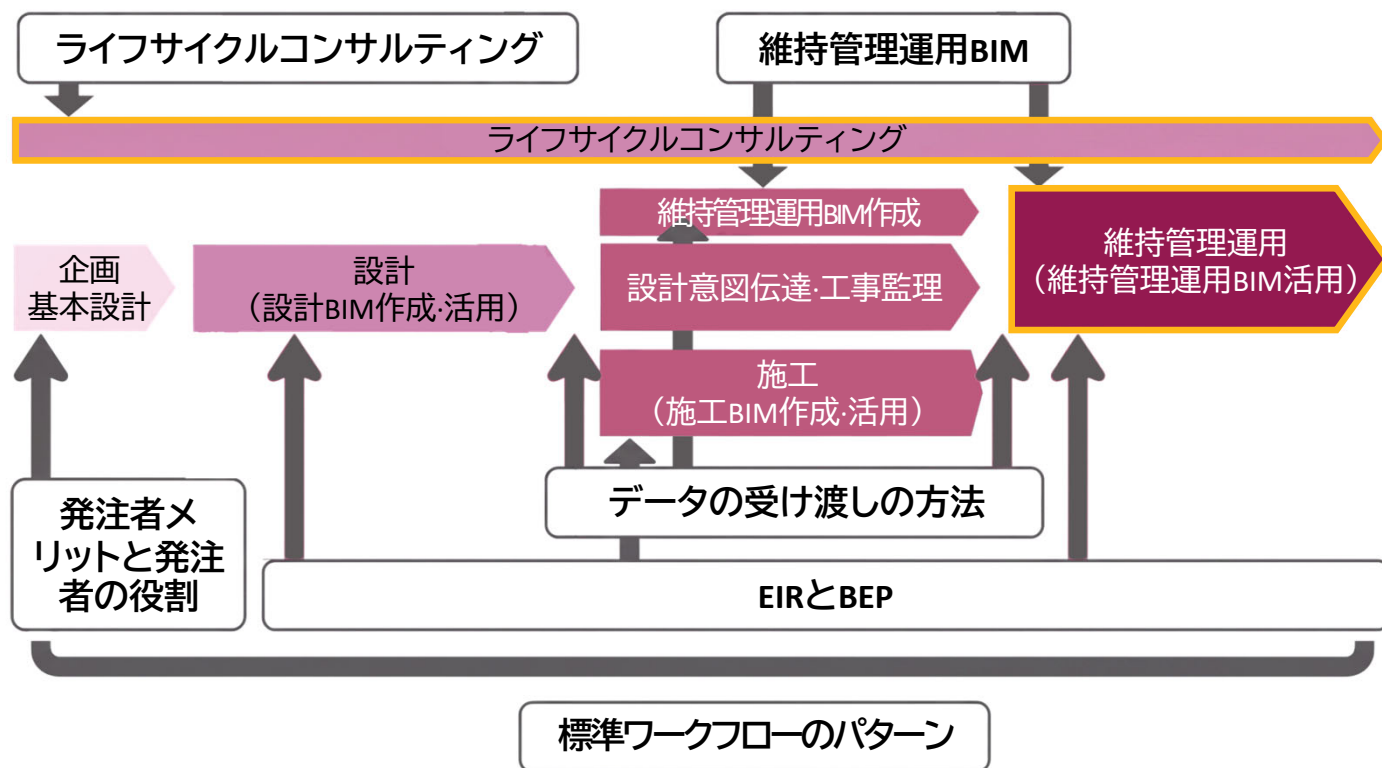


※出典: BIM GATE「BIMとは?」(日事連)

建築情報のマネジメントを担う新たな役割

※ 出典:「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用
方策に関するガイドライン(第2版)」より一部改変

■ 建築情報をコントロールし、専門知識で発注者を支援することが建築士事務所の新たな役割



BIM標準ワークフローを構成するステージ・業務

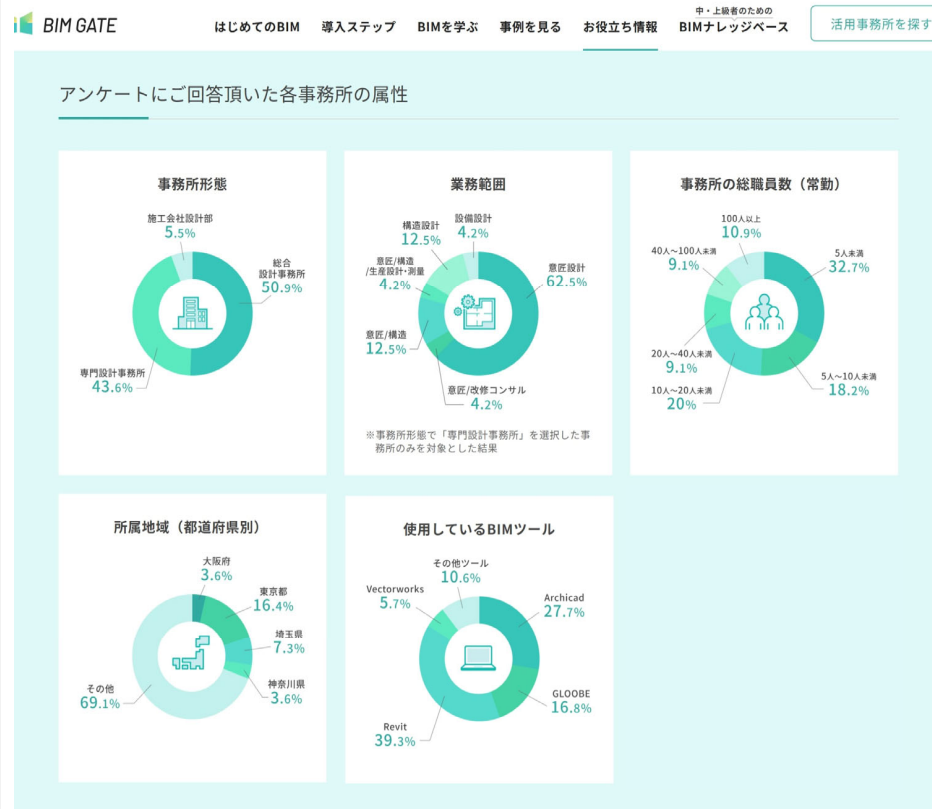
業務ステージ	主な業務
企画・基本設計	- 企画、立案に係る各種条件の調査、把握 - 事業計画に係る調査、検討 - 基本計画等の作成 - BIMの受渡しルールや活用範囲、各事業者の役割分担等の検討・提案 - 事業の発注先の選定(設計者選定、施工者選定) - 仕様書などの資料作成、選定手続き
ライフサイクルコンサルティング	- 維持管理・運用の方向性の事前検討 - EIRの作成支援 - 各段階で締結するBEPの内容確認、発注者へのアドバイス - 維持管理・運用で必要と想定されるBIMの情報の事前検討 - 当該情報およびモデリング・入力ルールとの共有 - 維持管理・運用BIMデータの確認(発注者の意向を反映したものであるかのチェック) - 維持管理・運用システム選定のアドバイス
維持管理・運用BIM作成	維持管理・運用BIMの作成
設計・設計意図伝達・工事監理	- 建築物の設計、工事監理 - 設計BIMの作成

建築士事務所が担い手になると考えられる主な業務

日事連アンケートが示す「現場の現実」

- 回答事務所の半数が「10人未満」(1人事務所も9%)
 - 「1～4人」の小規模事務所だけで全体の32%を占める
 - BIMは決して大手だけのものではない
- 最大の効果は「手戻り削減」+「合意形成の迅速化」
 - 約60%が干渉チェック等による「手戻り削減」を実感
 - 視覚的提案で、竣工後の「イメージ違い」クレーム減少
 - 単純な時短以上に、品質向上と提案力に直結
- BIMでの申請図書作成経験「ある」は24%
 - 「一般図はBIM、詳細図は2D」のハイブリッド運用主流
 - 伸びしろは大きく、制度が整いつつある今が始めどき
- 現場が直面する2大課題(属人化とコスト)
 - ソフトウェアやPCへの投資など「コスト」が重い負担に
 - 作業を特定の一人に任せきる「属人化」や、初期の「作り込みすぎ」による失敗例が多く挙がる
 - 特定の人への「属人化」と「コスト」の負担解消が急務

数字と実務スタイルで知る、BIM活用のリアル



※出典: BIM GATE「BIM利用者の声」(日事連)

導入事例に見る、BIM活用の実践例2選



■ 住建設計(京都)

□ Twinmotionを活用した動画プレゼン

BGM付き動画で、施主のスムーズな意思決定を促進

□ BIMx(iPad)を用いた現場コミュニケーション

現場でBIMxの画面に直接スケッチを書き込み、正確に設計意図を共有

□ 非専門家との円滑な合意形成

PFI事業(動物愛護センター)において、ウォークスルーを用いて空間や動線を分かりやすく説明



■ 田原泰浩建築設計事務所(広島)

□ 「ACD48」でのノウハウ共有

オンラインで各地のユーザーとノウハウを共有

□ データ統合による干渉チェック

構造や設備のデータを意匠モデルに統合し、データを通じた協働設計を実践

□ 国交省モデル事業への参画

ヒロシマBIMプロジェクトとして、異なるプラットフォーム間をつなぐ協働を検証

実務者座談会から見た「壁と乗り越え方」



■ 壁 ①: BIMは手間がかかる・工数が増える

- 慣れれば作業量は3～4割削減
- 操作の習熟と検討のフロントローディングで全体効率向上

■ 壁 ②: 初期段階からの「作り込みすぎ」

- 最初は「とりあえずのパーツ」で検討、力の抜き加減を共有
- 「一般図はBIM、詳細図は2D」と完璧を目指さず割り切り、導入ハードルを下げる

■ 壁 ③: 地方の人材不足

- 事務所の枠を超えた「チーム設計」でリソース補完
- オンライン画面共有などを活用し、外部の仲間と協働でプロジェクトを進める

※出典: BIM GATE「BIM連携の現場」(日事連)



検索結果

荒井建設 (株)	北海道	さらに詳しく >
対応BIMソフト	Ar	インターン受け入れ 建設土木、建築 (施工管理)
BIM対応業務	基本設計、施工図、CG/VR等、各種シミュレーション	提供サービス 建築に伴う施工BIM
(株) 野村設計一級建築士事務所	北海道	さらに詳しく >

※出典: BIM GATE「BIM活用事務所」(日事連)

日事連によるBIM普及と導入支援の展開

■ 教育・普及に関する取り組み

□ 講習会実施履歴 講習会実施履歴

開催年	名称	概要
R4年度	日事連BIMセミナー	BIM未導入・未活用の事務所向けて、BIMの利点と事例を紹介し、導入検討を促す。
R5年度	経営者向けセミナー (国庫種助)	BIM導入の意義、業務フロー、先進事例、関連制度の解説
R5年度 R6年度	令和5・6年度BIM技法、 技術研修(国庫補助)	BIM初級者向けの実践的研修(技法習得+建築プロジェクト作成)

※令和5年度セミナー動画・令和6年度研修教材はBIM GATEにて公開中

□ 2026年度以降の方針(調整中)

- 建築士事務所の経営者・実務者が「BIMを導入するか否かを判断できる状態」をつくることを目的とした講習の実施を検討
- 他団体との連携による質の高い講習内容の設計
- BIM GATEリニューアルサイトと連動した広報・受講促進体制の整備

■ マロニエBIMコンペティション

- 2013年に栃木県建築士事務所協会から始まり、全国各地で開催を重ね、日本のBIM普及・促進や学生・若手技術者の育成に貢献してきた

開催年	開催地	テーマ
～2020	栃木会	
2021	熊本県	益城町木山蛭子町のまちづくりに貢献するBIM
2022	宮城県	葉山公園に杜の都のスポーツ文化を象徴するBIM活用デザインの提案
2023	大阪府	水都OSAKA“中之島”を考える
2024	神奈川県	継承の作法とデザイン ～都市と建築のパブリックスペース～
2025	徳島県	水都徳島の中心市街地で考える脱炭素社会

□ 2026年度以降の方針(調整中)

- 2026年度は一旦休止し、コンペのあり方を再構築、地域連携・参加促進の仕組みを整備した上で、2027年度からの再開を目指す

まとめー情報マネジメントへの入口に向かって

※出典:「中小事業者BIM導入・活用ステップ&ガイド冊子」より一部改変

■ 一歩ずつ段階的に取り組むことで、BIMを無理なく定着させる

1

BIMを知る

BIMそのものを知り、話を聞いて、触れて、メリットやニーズを知る



2

BIMを使う

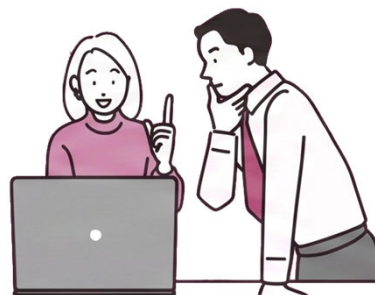
BIM活用の目的を考え、自社にあうソフト選択や環境を整備し、まず使う



3

BIMを実践する

BIMモデルを構築し、実プロジェクトで継続的に使い続ける体制をつくる



4

BIMを共有する

情報を正しく共有するための共同作業環境、各フェーズでのデータ連携



ご清聴ありがとうございました

